

第 1 3 0 回 幹 事 会

平成 2 3 年 7 月 2 8 日

日 本 学 術 会 議

第130回幹事会（平成23年7月28日（木））13:30～

議事次第

（公開審議）

I 前回議事要旨確認

II 諸報告

III 審議事項

1 委員会関係

提案1 国際人権ネットワーク対応委員会における委員の決定について

提案2 部が直接統括する分野別委員会合同分科会の設置及び委員の決定について

2 提言等関係

提案3 提言「人類の持続性確保に貢献するフロンティア人工物科学技術の推進」（案）（総合工学委員会・機械工学委員会合同 フロンティア人工物分科会）

提案4 提言「地域主権改革と博物館－成熟社会における貢献をめざして－」（案）（史学委員会博物館・美術館等の組織運営に関する分科会）

提案5 提言「歴史学・考古学における学術資料の質の維持・向上のために－発掘調査のあり方を中心に－」（案）（史学委員会文化財の保護と活用に関する分科会）

提案6 報告「資源循環型ものづくりを実現するための学術的指針—地球温暖化対策を主対象に—」（案）（機械工学委員会生産科学分科会）

提案7 提言「農業環境工学を活用した環境教育の充実に向けて」（案）（農学委員会農業生産環境工学分科会）

提案8 提言「子どもを元気にする運動・スポーツの適正実施のための基本指針」（案）（健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会）

提案9 提言「気候変動下における水・土砂災害適応策の深化に向けて～第一次提言～」（案）（土木工学・建築学委員会地球環境の変化に伴う水害・土砂災害への対応分科会）

提案10 提言「新しい高校地理・歴史教育の創造—グローバル化に対応した時空間認識の育成—」（案）（心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同 高校地理歴史科教育に関する分科会）

提案11 提言「我が国の医学教育はいかにあるべきか」（案）（基礎医学委員会・臨床医学委員会合同医学教育分科会）

提案12 提言「社会のための学術としての「知の統合」—その具現に向けて—」（案）（社会のための学術としての「知の統合」推進委員会）

提案13 提言「わが国に望まれる食品安全のためのレギュラトリーサイエンス」（案）（農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同食の安全分科会）

提案14 提言「学術統計の整備と活用に向けて」（案）（科学者委員会学術統計検討分科会）

提案15 提言「国民の健康増進を支える薬学研究—レギュラトリーサイエンスを基盤とした医薬品・医療機器の探索・開発・市販後研究の高度化を目指して—」（案）（薬学委員会）

提案16 提言「高等教育における環境教育の充実に向けて」（案）（環境学委員会環境思想・環境教育分科会）

- 提案17 提言「ＩＴ社会の最適化—日本の復興と新成長のために」（案）
（法学委員会「ＩＴ社会と法」分科会）
- 提案18 報告「昆虫科学の果たすべき役割とその推進の必要性」（案）（農
学委員会応用昆虫学分科会）
- 3 国際会議等関係 提案19 平成23年度代表派遣について（平成23年9月）
提案20 IAP's 4th Young Scientists Conference 2011への会員の派遣
提案21 ブータン学術機関等との会合に係る会員の派遣
- 4 協力学術研究団体
関係 提案22 日本学術会議協力学術研究団体の指定
- 5 規則等 提案23 日本学術会議協力学術研究団体規程の一部改正
- 6 シンポジウム等 提案24 公開シンポジウム「いま、何故、心理学教育を高校に導入する必要
があるのか？」
提案25 フォーラム「生命科学の進展に伴う新たなリスクと科学者の役割」
提案26 公開シンポジウム 「防災と地理教育」
提案27 公開シンポジウム「生命科学のパイオニアが語る生命の不思議」
提案28 公開シンポジウム「安全・安心な社会のための食料・健康・環境
—植物工場によるライフ＆グリーンイノベーション—」
提案29 公開シンポジウム「日本における老年学・老年医学推進のためのシ
ンポジウム」
提案30 公開シンポジウム「社会的なるものの復権—あらためてモダニティ
を問う—」
提案31 日本学術会議東北地区会議主催講演会
提案32 「平成23年度産学官連携推進会議」
提案33 サイエンスアゴラ2011
- 7 後援 提案34 国内会議の後援について
- 8 その他 提案35 「日本学術会議の活動状況等に関する年次報告
（平成22年10月～平成23年9月）」の作成について
提案36 「第21期における分科会活動の総括結果について」

IV その他

V 非公開審議事項

- 1 委員会関係 提案37 東日本大震災対策委員会における分科会委員（特任連携会員）の決
定について
- 2 その他

資料2

第130回幹事会（7月28日）出席者一覧

会長	広渡 清吾
副会長	大垣 眞一郎
副会長	秋山 弘子
副会長	唐木 英明
第一部 部長	小林 良彰
第一部 副部長	木村 茂光
第一部 幹事	酒井 啓子
第一部 幹事	白田 佳子
第二部 部長	浅島 誠
第二部 副部長	北島 政樹
第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷺谷 いづみ
第三部 部長	岩澤 康裕
第三部 副部長	後藤 俊夫
第三部 幹事	池田 駿介
第三部 幹事	永宮 正治

事務局長 齋藤 敦

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
第 2 各部・各委員会等報告	1
1 部会の開催とその議題	1
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	1
3 機能別委員会の開催とその議題	2
4 分野別委員会の開催とその議題	2
5 課題別委員会の開催とその議題	5
6 インパクトレポート	6
7 記録	8
8 サイエンスカフェの開催	8
9 総合科学技術会議報告	8
10 慶弔	9

第 1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
7 月 14 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	廣渡会長
	産学官連携功労者表彰選考委員会	
7 月 21 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	廣渡会長
7 月 22 日 (金)	衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会 ※参考人	廣渡会長
7 月 23 日 (土)	中国・四国地区会議公開学術講演会	廣渡会長
7 月 25 日 (月)	世界工学会議 2015 發起人会	唐木副会長
7 月 27 日 (水)	衆議院厚生労働委員会 ※参考人	唐木副会長

(注) 部会、委員会等を除く。

第 2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第一部夏季部会 (第 8 回) (7 月 23 日・7 月 24 日)

①報告事項

- 1) 幹事会報告 2) 常置委員会報告 3) 分野別委員会報告
- 4) 課題別委員会報告 5) その他

②協議事項

- 1) 期の移行における第 1 部及び分野別委員会の分科会の存廃について
- 2) 「日本の展望」の普及活動について
- 3) 日本学術会議の機能強化について
- 4) 東日本大震災への対応について 5) その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 若手アカデミー委員会 若手アカデミー活動検討分科会 (第 21 期・第 9 回) (6 月 26 日)

- ①提言「若手アカデミー設置提案」について
- ②公開シンポジウムの運営について
- ③今後の活動等について

(2) 若手アカデミー委員会 (第 21 期・第 7 回) (7 月 11 日)

- ① 提言「若手アカデミーの設置について」(案)
- ② その他

(3) 東日本大震災対策委員会エネルギー政策の選択肢分科会 (第 6 回)
(7 月 12 日)

- ① 提言公表の経緯について ② 今後の予定について
- ③ その他

(4) 東日本大震災対策委員会放射線の健康への影響と防護分科会 (第 2 回)
(7 月 13 日)

- ① 分科会の今後の一般市民向け活動 ② 委員会合意の取り方と開催方針
- ③ 委員の追加 ④ その他

(5) 東日本大震災対策委員会被災地域の復興グランド・デザイン分科会 (第 5 回)
(7 月 28 日)

- ① 委員からの提案の取りまとめについて ② 今後の進め方について
- ③ その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学者委員会 (第 46 回) (7 月 11 日)

- ① 科学者委員会男女共同参画分科会報告「学術における男女共同参画推進の加速に向けて」幹事会への諮問について
- ② 東北地区講演会の開催について

(2) 科学と社会委員会科学力増進分科会 (第 19 回) (7 月 20 日)

- ① サイエンスアゴラ 2011 について ② サイエンスカフェについて
- ③ 室伏先生の学術叢書について ④ その他

(3) 科学者委員会 学協会の機能強化方策検討等分科会 (第 13 回)、
学術団体のあり方に関する調査研究小委員会 (第 7 回) 合同会合 (7 月 26 日)

- ① 学術著作権のあり方について
- ② 今後の活動について
- ③ その他

(4) 科学者委員会 (第 47 回) (7 月 22 日)

- ① 日本学術会議主催学術フォーラムの追加開催について

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

- (1) 哲学委員会（第10回）（7月11日）
 - ①分科会総括および見直しについて ②東日本大震災へ向けての提言について
 - ③その他
- (2) 言語・文学委員会、哲学委員会、史学委員会、地域研究委員会合同アジア研究・対アジア関係に関する分科会（第10回）（7月13日）
 - ①アジア研究・対アジア関係に関する分科会の今後の方針について
 - ②その他
- (3) 地域研究委員会多文化共生分科会（第13回）（7月17日）
 - ①報告書の作成に向けて ②スチュアートさんの報告 ③その他
- (4) 史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会（第14回）（7月18日）
 - ①報告「激変する世界と歴史学の位相差」 水島 司先生
 - ②報告「歴史認識・歴史教育とジェンダー」 姫岡 とし子先生
 - ③10月号『学術の動向』特集について ④その他

第二部担当

- (1) 基礎医学委員会（第4回）（7月11日）
 - ①大型マスタープランに関するシンポジウム報告と今後の対応について
 - ②ポストドクアンケート結果について ③その他
- (2) 農学委員会育種学分科会（第5回）（7月13日）
 - ①今後の分科会活動について
 - とくに、気候変動下における農林水産業への育種学の貢献（仮題）に関するシンポジウム企画案の検討
 - ②その他
- (3) 農学委員会植物保護科学分科会（第3回）（7月15日）
 - ①公開シンポジウムの開催について
 - ②植物保護科学分科会からの提言について ③その他
- (4) 心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会（第20回）（7月15日）
 - ①提言の完成に向けて ②その他

(5) 農学委員会応用昆虫学分科会 (第8回) (7月16日)

- ①第21期の総括 ②その他

(6) 歯学委員会歯科医療制度に関する検討分科会 (第5回) (7月25日)

- ①本日の公開シンポジウムについて
②今期の分科会活動の取りまとめについて ③今後の活動について
④その他

(7) 農学委員会・食料科学委員会合同 I U N S 分科会 (第5回) (7月26日)

- ①第21期の分科会活動の総括 ②今後に引き継ぐべき課題 ③その他

(8) 臨床医学委員会出生・発達分科会 (第4回) (7月27日)

- ①報告書(提案)の見直し ②その他

第三部担当

(1) 電気電子工学委員会 U R S I 分科会 (第8回) (7月11日)

- ① U R S I 分科会の活動について
1) 電気電子工学委員会の活動について
2) U R S I 分科会活動報告(日本学術会議総会資料)の提出について
3) U R S I 分科会自己点検報告書の更新について
4) 平成23年度代表派遣会議及び派遣者の決定について
5) 第21期における U R S I 分科会活動の総括について
6) 国際委員会国際対応戦略立案分科会からの依頼について
7) U R S I 本部への2011年分担金支払いについて
8) その他
② 2010年アジア・太平洋電波科学会議(AP-RASC'10)の総括について
1) AP-RASC'10組織委員会(第2回)・実行委員会(第9回)合同会議について
2) その他
③ 第30回 U R S I 総会(2011年)への対応について
1) National Reportの作成について
2) 2011年 U R S I 学術賞(URSI Awards 2011)の選考結果について
3) 若手研究者学術賞(Young Scientist Award)の選考結果について
4) U R S I 長期計画検討委員会(Long Range Planning Committee:LRPC)からの報告について
5) U R S I 本部からの諸連絡と対応について
I. URSI 理事会(Council)の開催について
II. AP-RASC 報告及び AP-RASC 国際諮問委員会(International Advisory

Board : IAB)会議の開催について

Ⅲ. URSI Member Committee ワークショップの開催について

Ⅳ. URSI-ITU ワークショップの開催について

Ⅴ. その他

6) 役員選挙について

7) その他

④第31回URSI総会(2014年)への立候補について

⑤URSI分科会の次期(第22期)体制について

⑥各小委員会の活動について ⑦その他

(2) 環境学委員会環境科学分科会(第3回)(7月12日)

①幹事の選出 ②環境科学の体系化について(第20期の活動の紹介と議論)

③環境モニタリング活動について(学術会議の活動も含めた紹介、吉田先生)

④今期のまとめについて ⑤その他

(3) 総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会(第7回)(7月14日)

①分科会としての「記録」について ②第1回計算力学シンポジウムについて

③その他

(4) 総合工学委員会原子力事故対応分科会原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会(第2回)(7月15日)

①文科省放射線等分布マップ作成について ②今後の進め方について

③その他

(5) 地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会(第9回)(7月25日)

①大規模研究計画について

②東日本大震災への対応について

地球惑星科学連合で検討中の声明についての検討

③来期への申し送り事項について ④その他

(6) 総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会心と脳など新しい領域検討小委員会(第7回)(7月25日)

①計算科学シミュレーションと工学応用分科会、他の小委員会の状況

②話題提供(敬称略)、順不同

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 大学教育の分野別質保証推進委員会学位に付記する専攻分野の名称の在り方検討分科会(第1回)(7月15日)

- ①委員長、副委員長及び幹事の選出について
- ②今後の進め方について ③その他

6 インパクト・レポート

勧告「総合的な科学・技術政策の確立による科学・技術研究の持続的振興に向けて」
インパクト・レポート

1 勧告内容

総合科学技術会議の在り方の再検討を契機として、平成 22 年 4 月に取りまとめた「日本の展望－学術からの提言 2010」の提言内容の具体化を求めるもの。科学技術基本法を見直し、次の 4 点を盛り込むことを勧告している。

- 法における「科学技術」の用語を「科学・技術」に改正し、政策が出口志向の研究に偏るという疑念を払拭するとともに、人文・社会科学を施策の対象とすることを明示すること。
- 科学・技術研究の長期的かつ総合的な政策を確立し、科学・技術研究の持続的振興を図るため、「科学技術基本計画」の名称を「科学・技術振興基本計画」と改称すること。また、計画の対象となる事項については、「基礎科学の推進」、「人文・社会科学の推進」及び「開発研究等の推進」並びに「研究基盤の強化」を法に明記すること。
- 「科学・技術振興基本計画」の対象事項として「次世代研究者等の育成・確保」及び「男女共同参画の推進」に関して長期的かつ総合的な施策を定めることを、法に明記すること。
- 「科学・技術振興基本計画」の策定に当たっては、日本学術会議の意見を聴くものとする。

2 勧告年月日

平成 22 年 8 月 25 日

3 社会的インパクト

(1) 政策

当勧告は平成 22 年 8 月 25 日に金澤会長より菅総理に手交した。

また、「総合科学技術会議に対する諮問第 11 号『科学技術に関する基本政策について』に対する答申について」（平成 22 年 12 月 24 日答申）の中で、科学技術の定義を「科学及び技術」とすることが記載された。

さらに、平成 23 年 7 月 22 日の衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会に参考人として広渡清吾会長が呼ばれ、その中で当勧告を紹介したところ、その趣旨に賛同する発言があった。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

外部評価委員は、「科学・技術」の表記を肯定的に評価。

ただし一般には、勧告を支持する意見がある一方で、「科学・技術」と表現することについて、科学は社会のためにあるのではないという主張に受け取られかねない、両者が分割されて縦割りで風通しが悪くなる、研究の社会的な側面と要因に価値を見出すのではなく研究者を自分の興味の範囲に閉じ込めるように受け取れてしまう、等の意見も存在。(平成 22 年 12 月 15 日『朝日新聞』『・』の攻防、平成 23 年 5 月 5 日『UP』(通算 463 号)『科学技術』か『科学・技術』か 等)

4 メディア

○新聞

- ・平成 22 年 8 月 25 日『朝日新聞』夕刊 8 面
『科学技術』じゃなく『科学・技術』に」
- ・平成 22 年 8 月 25 日『読売新聞』夕刊 2 面
「基礎科学の充実 学術会議が勧告」
- ・平成 22 年 8 月 25 日『毎日新聞』夕刊 6 面
「学術会議 『基礎研究再認識を』 5 年ぶり政府に勧告」
- ・平成 22 年 8 月 25 日『日経新聞』夕刊 2 面
「基礎科学にも研究費を」
- ・平成 22 年 8 月 26 日『日経産業新聞』1 2 面
「基礎研究に配慮求める勧告 日本学術会議」
- ・平成 22 年 8 月 26 日『日刊工業新聞』20 面
『科学技術』→『科学・技術』 首相に勧告基礎の重要性指摘 学術会議」
- ・平成 22 年 9 月 3 日『科学新聞』1 面
『科学技術』を『科学・技術』に 日本学術会議 法改正を勧告」

○インターネット

- ・平成 22 年 8 月 25 日 11:48
時事通信『人文・社会』も対象に＝科技基本法など見直し勧告－菅首相に学術会議
会長」
- ・平成 22 年 8 月 25 日 11:50
共同通信「基礎科学推進に法改正を 学術会議が政府に勧告」
- ・平成 22 年 8 月 25 日 11:52
毎日 jp「学術会議 政府に勧告『基礎研究、再認識を』」
- ・平成 22 年 8 月 25 日 11:54
Asahi.com「科学と技術の間に『・』を 学術会議が首相に法改正勧告」
- ・平成 23 年 8 月 25 日 12:24
日本経済新聞電子版「基礎科学にも研究費配分を 学術会議、首相に勧告」

5 考察と自己点検

今後の日本の科学技術政策の根幹となる第4期科学技術基本計画の基となる答申『科学技術に関する基本政策について』において、科学技術の定義が記載されたことは、政府に対して大きなインパクトを与えたと考える。

また、勧告の発出後概ね1年後に、政策への反映に向けての着手状況の調査、概ね3年後に政策への反映状況の調査を内閣府本府に依頼し、当勧告のフォローアップを行うこととなっている。

インパクト・レポート作成責任者

日本学術会議会長 広渡清吾

7 記録

第二部関係

作成日						委員会等名	委員会No						標題
平成	2	3		0	7	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物学分科会	2	1	4	2	0	4	被災自然史標本と博物館の復旧・復興にむけてー学術コミュニティは何をすべきか

8 サイエンスカフェの開催

(1) 7月15日(金) 18:30～20:30

場 所：サロン・ド・FUZAMBO Folio

テーマ：「スポーツを科学する」

シリーズ増田明美：スポーツの世界をたっぷりと

ゲスト：増田 明美さん（スポーツジャーナリスト）

コーディネーター：室伏 きみ子さん（お茶の水女子大学大学院教授）

(2) 7月20日(水) 18:30～20:30

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ（旧庁舎1階）

テーマ：「スポーツのジェンダー構造を読む」

講 師：飯田 貴子（日本学術会議連携会員、帝塚山学院大学教授）

コメンテータ：上野 千鶴子（日本学術会議会員、ウィメンズアクションネットワーク理事長）

ファシリテータ：跡見 順子（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

9 総合科学技術会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

7月14日 出席

7月21日 出席

7月28日 出席

10 慶弔

・慶事

○北島 政樹（第二部副部長）がハンガリー・センメルweis大学名誉医学博士号及びポーランド・ヴロツワフ医科大学名誉医学博士号を授与されました。

○平成23年春の褒章受章者（追加）

【紫綬褒章】

田邊 信介（第20、21期連携会員）

・ご逝去

加賀谷 淳子（かがや あつこ）71歳 7月24日

第20期第2部会員、第21期連携会員 日本女子体育大学 名誉教授

審 議 事 項

		頁
Ⅲ 審議事項		1
1 委員会関係	提案1 国際人権ネットワーク対応委員会における委員の決定について	1
	提案2 部が直接統括する分野別委員会合同分科会の設置及び委員の決定について	2
2 提言等関係	提案3 提言「人類の持続性確保に貢献するフロンティア人工物科学技術の推進」(案)(総合工学委員会・機械工学委員会合同 フロンティア人工物分科会)	5
	提案4 提言「地域主権改革と博物館—成熟社会における貢献をめざして—」(案)(史学委員会博物館・美術館等の組織運営に関する分科会)	6
	提案5 提言「歴史学・考古学における学術資料の質の維持・向上のために—発掘調査のあり方を中心に—」(案)(史学委員会文化財の保護と活用に関する分科会)	7
	提案6 報告「資源循環型ものづくりを実現するための学術的指針—地球温暖化対策を主対象に—」(案)(機械工学委員会生産科学分科会)	8
	提案7 提言「農業環境工学を活用した環境教育の充実に向けて」(案)(農学委員会農業生産環境工学分科会)	9
	提案8 提言「子どもを元気にする運動・スポーツの適正実施のための基本指針」(案)(健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会)	10
	提案9 提言「気候変動下における水・土砂災害適応策の深化に向けて～第一次提言～」(案)(土木工学・建築学委員会地球環境の変化に伴う水害・土砂災害への対応分科会)	11
	提案10 提言「新しい高校地理・歴史教育の創造—グローバル化に対応した時空間認識の育成—」(案)(心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同 高校地理歴史科教育に関する分科会)	12
	提案11 提言「我が国の医学教育はいかにあるべきか」(案)(基礎医学委員会・臨床医学委員会合同医学教育分科会)	13
	提案12 提言「社会のための学術としての「知の統合」—その具現に向けて—」(案)(社会のための学術としての「知の統合」推進委員会)	14
	提案13 提言「わが国に望まれる食品安全のためのレギュラトリーサイエンス」(案)(農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同食の安全分科会)	15
	提案14 提言「学術統計の整備と活用に向けて」(案)(科学者委員会学術統計検討分科会)	16
	提案15 提言「国民の健康増進を支える薬学研究—レギュラトリーサイエンスを基盤とした医薬品・医療機器の探索・開発・市販後研究の高度化を目指して—」(案)(薬学委員会)	17
	提案16 提言「高等教育における環境教育の充実に向けて」(案)(環境学委員会環境思想・環境教育分科会)	18
	提案17 提言「IT社会の最適化—日本の復興と新成長のために—」(案)(法学委員会「IT社会と法」分科会)	19
	提案18 報告「昆虫科学の果たすべき役割とその推進の必要性」(案)(農学委員会応用昆虫学分科会)	20
3 国際会議等関係	提案19 平成23年度代表派遣について(平成23年9月)	21
	提案20 IAP's 4th Young Scientists Conference 2011への会員の派遣	23
	提案21 ブータン学術機関等との会合に係る会員の派遣	27

4	協力学術研究団体	提案22	日本学術会議協力学術研究団体の指定	28
5	規則等	提案23	日本学術会議協力学術研究団体規程の一部改正	31
6	シンポジウム等	提案24	公開シンポジウム「いま、何故、心理学教育を高校に導入する必要があるのか？」	32
		提案25	フォーラム「生命科学の進展に伴う新たなリスクと科学者の役割」	34
		提案26	公開シンポジウム 「防災と地理教育」	36
		提案27	公開シンポジウム「生命科学のパイオニアが語る生命の不思議」	38
		提案28	公開シンポジウム「安全・安心な社会のための食料・健康・環境 — 植物工場によるライフ＆グリーンイノベーション—」	40
		提案29	公開シンポジウム「日本における老年学・老年医学推進のためのシンポジウム」	42
		提案30	公開シンポジウム「社会的なるものの復権—あらためてモダニティを問う—」	45
		提案31	日本学術会議東北地区会議主催講演会	47
		提案32	「平成23年度産学官連携推進会議」	49
		提案33	サイエンスアゴラ2011	52
7	後援	提案34	国内会議の後援について	55
8	その他	提案35	「日本学術会議の活動状況等に関する年次報告（平成22年10月～平成23年9月）」の作成について	56
		提案36	「第21期における分科会活動の総括結果について」	57

1	
幹事会	130

提 案

国際人権ネットワーク対応委員会における委員の決定

- 1 提 案 者 国際人権ネットワーク対応委員会委員長
- 2 議 案 国際人権ネットワーク対応委員会の委員の決定（1件）
- 3 提案理由 下記の委員会における委員の決定をする必要があるため。

記

○ 委員の決定（追加 1件）

（ 国際人権ネットワーク対応委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
秋山 弘子	東京大学高齢社会総合研究機構教授	第一部会員

2	
幹事会	1 3 0

提 案

部が直接統括する分野別委員会合同分科会の設置及び委員の決定について

1. 提 案 者 第一部長
2. 議 案 部が直接統括する分野別委員会合同分科会の設置及び委員の決定（新規設置 1 件）
3. 提案理由 下記の部が直接統括する分野別委員会合同分科会（部附置委員会）の設置及び委員の決定をする必要があるため。

記

第一部 3. 1 1 以降の日本社会を考える分科会

部が直接統括する分野別委員会合同分科会の設置について

合同分科会の名称：第一部 3.11 以降の日本社会を考える分科会

1	担当部及び関係委員会名	第一部
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	本分科会は、東日本大震災以降の日本社会における変動を踏まえて、これからの日本社会が目指す新しい価値選択について人文・社会科学の視点から検討することを目的とする。さらに本分科会では、東日本大震災復興支援に関する必要な提言を行うことにしたい。これらの目的により、本分科会を設置することにしたい。
4	審議事項	①日本社会における価値選択を検討 ②東日本大震災復興支援に関する提言の創出
5	設置期間	期限設置 年 月 日～ 年 月 日
		☐ 常設
6	備考	

○委員の決定（新規 1 件）

（ 第一部 3. 1 1 以降の日本社会を考える分科会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小林良彰	慶應義塾大学法学部教授	第一部会員
木村茂光	東京学芸大学教育学部教授	第一部会員
猪口邦子	参議院議員	第一部会員
野家啓一	東北大学理事・付属図書館長 東北大学大学院文学研究科教授	第一部会員
樋口美雄	慶應義塾大学商学部長	第一部会員
今田高俊	東京工業大学大学院 社会理工学研究科教授	第一部会員
佐藤 学	東京大学大学院教育学研究科教授	第一部会員
白田佳子	筑波大学大学院 ビジネス科学研究科教授	第一部会員
吉田克己	北海道大学大学院法学研究科教授	連携会員
山川充夫	福島大学大学院経営学研究科教授	連携会員

3	
幹事会	1 3 0

提 案

提言「人類の持続性確保に貢献するフロンティア人工物科学技術の推進」

- 1 提 案 者 総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「人類の持続性確保に貢献するフロンティア人工物科学技術の推進」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと

4	
幹事会	1 3 0

提 案

提言「地域主権改革と博物館－成熟社会における貢献をめざして－」

- 1 提 案 者 史学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「地域主権改革と博物館－成熟社会における貢献をめざして－」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと。

5	
幹事会	1 3 0

提 案

提言「歴史学・考古学における学術資料の質の維持・向上のために
－発掘調査のあり方を中心に－」

- 1 提 案 者 史学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「歴史学・考古学における学術資料の質の維持・向上のために－発掘調査のあり方を中心に－」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと。

6	
幹事会	1 3 0

提 案

報告「資源循環型ものづくりを実現するための学術的指針
－地球温暖化対策を主対象に－」

- 1 提 案 者 機械工学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 機械工学委員会生産科学分科会において、これまで審議してきた結果を別添のとおり取りまとめたので、報告としてこれを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第4号の「報告」として取り扱うこと

7	
幹事会	1 3 0

提 案

提言「農業環境工学を活用した環境教育の充実に向けて」

- 1 提 案 者 農学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「農業環境工学を活用した環境教育の充実に向けて」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと。

8	
幹事会	1 3 0

提 案

提言「子どもを元気にする運動・スポーツの適正実施のための基本指針」

- 1 提 案 者 健康・生活科学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「子どもを元気にする運動・スポーツの適正実施のための基本指針」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと。

9	
幹事会	1 3 0

提 案

提言「気候変動下における水・土砂災害適応策の深化に向けて～第一次提言～」

- 1 提 案 者 土木工学・建築学委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「気候変動下における水・土砂災害適応策の深化に向けて～第一次提言～」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと

10	
幹事会	1 3 0

提 案

提言「新しい高校地理・歴史教育の創造—グローバル化に対応した
時空間認識の育成—」

- 1 提 案 者 心理学・教育学委員会委員長、史学委員会委員長、
地域研究委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「新しい高校地理・歴史教育の創造—グローバル化に対
応した時空間認識の育成—」を別添のとおり取りまとめたので、
関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと。

11	
幹事会	1 3 0

提 案

提言「我が国の医学教育はいかにあるべきか」

- 1 提 案 者 基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「我が国の医学教育はいかにあるべきか」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと。

12	
幹事会	1 3 0

提 案

提言「社会のための学術としての「知の統合」—その具現に向けて—」

- 1 提 案 者 社会のための学術としての「知の統合」推進委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「社会のための学術としての「知の統合」—その具現に向けて—」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと

13	
幹事会	1 3 0

提 案

提言「わが国に望まれる食品安全のためのレギュラトリーサイエンス」

- 1 提 案 者 農学委員会委員長、食料科学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「わが国に望まれる食品安全のためのレギュラトリーサイエンス」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと。

14	
幹事会	1 3 0

提 案

提言「学術統計の整備と活用に向けて」

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「学術統計の整備と活用に向けて」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと。

15	
幹事会	130

提 案

提言「国民の健康増進を支える薬学研究－レギュラトリーサイエンスを基盤とした医薬品・医療機器の探索・開発・市販後研究の高度化を目指して－」

- 1 提 案 者 薬学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「国民の健康増進を支える薬学研究－レギュラトリーサイエンスを基盤とした医薬品・医療機器の探索・開発・市販後研究の高度化を目指して－」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと。

16	
幹事会	130

提 案

提 言「高等教育における環境教育の充実に向けて」

- 1 提 案 者 環境学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「高等教育における環境教育の充実に向けて」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと

17	
幹事会	1 3 0

提 案

提言「I T社会の最適化—日本の復興と新成長のために」

- 1 提 案 者 法学委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「I T社会の最適化—日本の復興と新成長のために」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと。

18	
幹事会	1 3 0

提 案

報告「昆虫科学の果たすべき役割とその推進の必要性」

- 1 提 案 者 農学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 農学委員会応用昆虫学分科会においてこれまで審議してきた結果を別添のとおり取りまとめたので、報告としてこれを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第4号の「報告」として取り扱うこと。

19	
幹事会	1 3 0

提 案

平成23年度代表派遣について（平成23年9月）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

＜参考＞「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣者の選考）

第19条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。

- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	国際科学会議第30回総会	9月27日	4 日	ローマ	黒田 玲子 第三部会員 東京大学大学院 総合文化研究科 教授	ICSU分科会 第1区分
		～ 9月30日		イタリア		
2	国際科学会議第30回総会	9月27日	4 日	ローマ	唐木 英明 第二部会員 東京大学 名誉教授	ICSU分科会 第1区分
		～ 9月30日		イタリア		
3	国際科学会議第30回総会	9月27日	4 日	ローマ	村岡 洋一 第三部会員 早稲田大学 理工学術院 教授	ICSU分科会 第1区分
		～ 9月30日		イタリア		

※派遣者について追加(1名)調整中。

20	
幹事会	130

提 案

IAP's 4th Young Scientists Conference 2011 への委員の派遣

- 1 提 案 者 若手アカデミー委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 IAP's 4th Young Scientists Conference 2011 に以下のとおり
委員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 駒井 章治（特任連携会員：若手アカデミー委員会）
隠岐 さや香（特任連携会員：若手アカデミー委員会若手アカ
デミー活動検討分科会）
- 5 用務期間 平成23年9月13日（火）～16日（金）
- 6 派遣場所 大連（中国）
- 7 開催趣旨

「IAP's Young Scientists Conference」は、「"Summer Davos（サマーダボス会議）"」を「Annual Meeting of the New Champions」として毎年開催している世界経済フォーラム（World Economic Forum）とIAPとが、2008年以来共同開催しているイベントであり、世界各国からの秀でた若手研究者に対し、産業界を中心とする各界からの参加者合計約1500名の規模で開催されるサマーダボス会議を通し、分野やコミュニティーを超えたセッションに参加させることを目標としている。

本年のサマーダボス会議のテーマは「Mastering Quality Growth」となっている一方で、「(第4回) IAP Young Scientists Conference 2011」では、「Mastering a New Business Matrix」をテーマとするIAP独自のイベントを同会期中に併設開催する（詳細準備中）（別紙参照）。

本年は、IAPメンバー国から約50名の若手科学者が本会合に招聘される。

Subject: 4th IAP Conference for Young Scientists in conjunction with the World Economic Forum's Annual Meeting of the New Champions, Dalian, People's Republic of China, 13-16 September 2011

Dear Dr. Komai,

We are pleased to inform you that you have been selected to attend the IAP/World Economic Forum's "Summer Davos" in Dalian, People's Republic of China, from 13-16 September 2011.

The World Economic Forum and IAP will facilitate the participation of around 50 outstanding young scientists in the event, to be integrated into the Forum's meeting which will involve around 1500 participants. The Meeting, this year on the theme "Mastering Quality Growth" is organized on the basis of panel discussions. The overall programme will focus on elements such as "Pursuing Frontiers of Growth", "Shaping new Business Models and Policies", "Embracing Disruptive Innovation" and "Sustaining a Creative and Entrepreneurial Culture". The World Economic Forum plans to identify a number of the selected young scientists to have active roles in cross-community public sessions on themes such as health, environment, energy, social business models, mobile economy and IT.

The programme is currently being developed and we should be able to provide you with more information in due course. In the meantime we ask that you confirm your attendance, and plan your arrival in Dalian for Monday 12 September afternoon. The Activities for the Young Scientists start on Tuesday 13 September where you will have the opportunity to meet with young mentors and resource persons to prepare for the official programme. You can plan your departure for Saturday 17 September. The Dalian Authorities have generously offered to cover your accommodation for 5 nights in the Dalian Hotel which will accommodate the group. More details on how to make a room reservation will follow.

(途中省略)

If you have any queries, please let us know.

With kind regards,

Prof. Romain Murenzi
Executive Director of TWAS and Head of IAP/IAMP Secretariat

--

For information on previous IAP Young Scientists Conferences, see:
<http://www.interacademies.net/Activities/Projects/IAPYoungScientistsProgramme/12282.aspx>

--

IAP Young Scientists 2011

The fourth "IAP Conference of Young Scientists" will be held in conjunction with the World Economic Forum's Annual Meeting of the New Champions (also known as "Summer Davos") and will take place in Dalian, China, from 14-16 September 2011. The World Economic Forum and IAP will facilitate the participation of around 50 outstanding young scientists in the event, to be integrated into the Forum's meeting which will involve around 1500 participants.

The Meeting, this year on the theme "**Mastering a New Business Matrix**" is organized on the basis of round table discussions with a number of sessions held in parallel.

IAP has issued a call for nominations for young scientists. A selection committee have reviewed all nominations and successful candidates have been contacted.

Preference was given to candidates with demonstrated experience of engaging with "wider society", for example involvement in science policy, public debates, involvement with industry or NGOs, promoting science in schools or international collaborations, as well as having outstanding communications and interpersonal skills.

More information on this year's events will be available shortly. If you have any queries, please contact: iap@twas.org.

Information on the previous IAP Young Scientists Conferences held in China in 2008, 2009 and 2010 is available [HERE](#).

14 September 2011—16 September 2011

www.weforum.org/events/annual-meeting-new-champions-2011

[Annual Meeting of the New Champions 2011](#)



The Annual Meeting of the New Champions, the "Summer Davos", is the foremost global business gathering in Asia. In 2011, we expect a stronger participation with over 1,500 participants.

21	
幹事会	1 3 0

提 案

ブータン学術機関等との会合に係る会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 ブータン学術機関等との会合のため、以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 唐木 英明（副会長）
白田 佳子（第一部幹事、国際委員会委員）
- 5 用務期間 平成23年9月10日（土）～15日（木）
- 6 会合場所 教育省(Ministry of Education)、王立ブータン大学(Royal University of Bhutan)等（ティンプー・ブータン）
- 7 派遣趣旨 ブータン学術機関等との会合に係る会員の派遣に関しては、日本学術会議の学術外交の観点から、国際学術交流事業の実施に関する内規第43条第3項（発展途上国における学術の研究体制の実態を把握し、当該国における学術の発展を図る上で必要な意見を交換し、情報を提供する活動）等を勘案して、唐木英明副会長及び白田佳子会員を日本学術会議の代表者として派遣することとしたい。

22	
幹事会	1 3 0

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答することとしたい。

記

- 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

- ・ 日本運動器疼痛学会
- ・ 日本ベンチャー学会
- ・ 中部教育学会
- ・ 日本伝統獣医学会

- 指定することを不適當と認める。

(申請団体名)

- ・ 日本・スペイン・ラテンアメリカ学会
- ・ 日本薬局学会

※平成23年7月28日現在1876団体（上記申請団体を含む。）

※ 団体の概要と審査所見

団体名	団体概要	審査所見
日本運動器疼痛学会	運動器疼痛の診療や研究に携わる多領域の医療従事者が集まり、痛みをより科学的な面から追求し、その活動を通じて国民にとって有益な医療の発展を目指す。 また、その成果を社会に広く啓発すると同時にその医療を担う人材を育成し、国内外のこの分野の医療・研究の指導的な役割を果たすことを目指す。	日本学術会議協力学術研究団体として適する学会であると評価できる。
日本ベンチャー学会	ベンチャー企業および一般企業における企業家活動等について理論・実証・実践に関する研究を行うとともに、産学協同の推進および企業家活動の支援に寄与することを目的とする。	日本学術会議協力学術研究団体として適する学会であると評価できる。
日本・スペイン・ラテンアメリカ学会	スペイン語およびスペイン語圏に関わる様々なテーマをスペイン語で研究し、それを発表・意見交換を通じて更に深いものにしていくことを目標とする。	日本学術会議との連絡がつかないなど事務局体制が脆弱であること、学会誌の大部分が講演や研究発表の内容で満たされていることなどからして日本学術会議協力学術研究団体に適する学会として評価することはできない。
中部教育学会	教育学に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、教育学の進歩普及を図り、もって、わが国の学術の発展に寄与することを目的とする。	日本学術会議協力学術研究団体として適する学会であると評価できる。
日本伝統獣医学会	動物に対する東洋医学に関する学理及び応用の研究調査並びにこれについての発表、知識の交換、情報の提供等を行い、学術の発展と推進に	日本学術会議協力学術研究団体として適する学会であると評価できる。

	関与する事を目的とする。	
日本薬局学会	薬局の従事者、医療従事者、患者の立場に立った薬局の機能およびサービスに係わる調査研究・評価などを行うことならびに同活動を通じて薬局機能およびサービスの育成と向上を図り、ひいては国民の医療の質および健康の向上に寄与することを目的とする。	「学術研究の向上発達を図ることを主たる目的とする」よりも、「学術の研究が当該団体又は当該業種の事業目的の従たるもの」と判断される。 学会の構成員が特定の薬局関係者に偏っており、研究者が構成員の半数以上であることに該当しないと考えられる等の理由により、日本学術会議協力学術研究団体に適する学会として評価することはできない。

23	
幹事会	1 3 0

提 案

日本学術会議協力学術研究団体規程の一部改正について

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 日本学術会議協力学術研究団体規程の一部を下記のとおり改正すること。
- 3 提案理由 日本学術会議会則の一部を改正する規則（平成23年日本学術会議規則第1号）の施行に伴い、規定を整理する必要があるため。

記

日本学術会議協力学術研究団体規程（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後	改 正 前
(要件) 第1 日本学術会議会則（以下「会則という。」）第35条第1項に規定する日本学術会議協力学術研究団体（以下「協力学術研究団体」という。）は、次の基準を具備する「学術研究団体」又は「学術研究団体の連合体」であることを原則とする。（略）	(要件) 第1 日本学術会議会則（以下「会則という。」）第34条第1項に規定する日本学術会議協力学術研究団体（以下「協力学術研究団体」という。）は、次の基準を具備する「学術研究団体」又は「学術研究団体の連合体」であることを原則とする。（略）
(活動) 第3 日本学術会議は会則第35条第2項の規定に基づき、協力学術研究団体と緊密な協力関係を保つため、次のことを行うものとする。（略）	(活動) 第3 日本学術会議は会則第34条第2項の規定に基づき、協力学術研究団体と緊密な協力関係を保つため、次のことを行うものとする。（略）

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

24	
幹事会	1 3 0

提 案

公開シンポジウム「いま、何故、心理学教育を高校に導入する必要があるのか？」の
開催について

- 1 提案者 心理学・教育学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議心理学・教育学委員会心理学教育プログラム検討分科会
2. 共 催 公益社団法人日本心理学会
3. 日 時 平成 23 年 8 月 20 日（土） 13 時 00 分～15 時 00 分
4. 場 所 東京大学アドミニストレーション棟 3 階国際交流ホール
([目黒区駒場 3-8-1](#))
5. 分科会 分科会開催予定
6. 開催趣旨

日本学術会議心理学教育プログラム検討分科会は、2008 年対外報告「学士課程における心理学教育の質的向上とキャリアパスに向けて」を公表した。その中で「心の科学の理解に資する学校教育の教科科目として、将来的には心理学を中等教育に導入し、人間理解や問題解決のための心の科学お智を教えることは意義がある（以下略）」と提言している。すでに欧米諸国では、中等学校の教科科目に心理学が導入されており、欧米の心理学会では高校における心理学科目の標準カリキュラムを策定し、心理学担当の教員を対象に、新しい心理学の動向に基づいたリカレント教育を毎年実施している。

他方、我が国の心理学に対する関心は、非常に高いものがあるにも関わらず、特定の専門領域の心理学がイクオール心理学だという認識が、一般に流布している点は、インタナショナルに展開している学問領域として憂慮すべきものがある。本年度から公益社団法人化した日本心理学会は、心理学に関する科学的な証拠に基づく知識・技術の一般への啓発に努めることを、事業の 1 つの目的にしている。

さらに、心理学教育が、大学以後でしかなく改善するため、現代心理学を中等学校の生徒に普及することを足がかりに、広く一般に心理学を普及させる事業の展開を毎年企画している。その一環として、今回学術会議の心理学教育プログラム検討分科会と共催による本シンポジウムを、本年度の事業計画として組込んだ次第である。

7. 次 第

○司会

内田伸子（日本学術会議会員、心理学教育学プログラム検討分科会委員、お茶の水女子大学客員教授）

○話題提供者

仁平義明（日本学術会議連携会員、心理学教育学プログラム検討分科会委員、白鷗大学教授）

「日米比較から見た我が国の心理学教育の問題点」

無藤 隆（日本学術会議連携会員、心理学教育学プログラム検討分科会委員、白梅学園大学教授）

「中等教育における心理学教育の可能性」

市川伸一（日本学術会議連携会員、心理学教育学プログラム検討分科会委員、東京大学教授）

「認知心理学を学習方法の改善に生かす」

池田まさみ（お茶の水女子大学特任准教授）

「中高の心理学出前授業から見た中高生の心理学理解の在り方」

佐藤けい子（埼玉県立川越高校教諭）

「高校生に対する心理学教育の導入によりどのような効果があるか」

今井一宏（同志社国際中学・高等学校教頭）

「高校生に心理学教育を実践で思うこと」

○指定討論者

利島 保（日本学術会議連携会員、心理学教育学プログラム検討分科会委員長、広島大学名誉教授）

長谷川寿一（日本学術会議会員、心理学教育学プログラム検討分科会委員、東京大学教授）

○企画者

利島 保、長谷川寿一、仁平義明、内田伸子、

佐藤隆夫（日本学術会議連携会員、心理学教育学プログラム検討分科会副委員長、東京大学教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

25	
幹事会	130

提 案

日本学術会議主催学術フォーラム
「生命科学の進展に伴う新たなリスクと科学者の役割」の開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記学術フォーラムを下記のとおり開催すること

記

- 1 主催：日本学術会議
- 2 日時：平成23年8月29日（月）
- 3 場所：日本学術会議講堂
- 4 協力（予定）：外務省、防衛省
- 5 後援（予定）：文部科学省、厚生労働省
- 6 開催趣旨

生命科学におけるデュアルユースの問題は、これまで、主として生物化学兵器に関する専門家を中心として議論が行われてきた。しかしながら、近年の生物工学の進展を踏まえれば、研究者が意図していなくとも、研究遂行上の不注意等により生命科学の知見や技術が軍事利用されるような事態が発生することも想定される。こうした事態の発生を避けつつ、科学の自由で活発な発展を推進するために、デュアルユース問題の専門家だけに限らず広い生命科学分野の専門家による議論を行い、理解を深めるとともに、科学者の役割について考えることを目的とする。

7 次第

- 13:00 冒頭挨拶
廣渡清吾（日本学術会議会長 専修大学教授）
- 13:15～14:30 基調講演
吉倉廣（日本学術会議連携会員 国立感染症研究所名誉所員）
マルコム・ダンドー（ブラッドフォード大学教授）

セッションⅠ

コーディネーター 春日 文子(日本学術会議会員、国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部室長)

報告:最近の生命科学の進展と新たなリスク

14:30～14:45 報告者 1 小安重夫(慶應義塾大学医学部教授)

14:45～15:00 報告者 2 外務省職員(調整中)

15:00～15:15 報告者 3 山村雅幸(東京工業大学大学院総合理工学研究科創発システム講座進化システム分野教授)

15:15～15:30 質疑・討論

15:30～15:45 休憩

セッションⅡ

コーディネーター 四ノ宮成祥(防衛医科大学校教授)

報告:我が国での取組みと今後の課題

15:45～16:00 報告者 1 山田憲彦(空幕首席衛生官、前防衛医科大学校防衛医学講座教授)

16:00～16:15 報告者 2 加藤和人(京都大学人文科学研究所 京都大学大学院生命科学研究科准教授)

16:15～16:30 報告者 3 渋谷健司(東京大学医学部医学系研究科国際保健学専攻国際保健政策学教室教授)

16:30～16:45 質疑・討論

16:45～17:30 全体討論

17:30～17:45 まとめ・閉会挨拶

唐木英明(日本学術会議副会長 東京大学名誉教授)

26	
幹事会	1 3 0

提 案

公開シンポジウム 「防災と地理教育」の開催について

1. 提案者 地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会
2. 共 催： 地理学連携機構（社）日本地理学会、人文地理学会、
（社）地理情報システム学会 日本国際地図学会等
3. 日 時：平成 23 年8月19日（日）13 時 30 分～17時
4. 場 所： 慶應義塾大学日吉校舎協生館
5. 委員会等の開催： 開催する。（午前中）
6. 開催趣旨：

東日本大震災では、防災教育のあり方が生死を分けたともいえる。新学習指導要領では、地理教育において、防災が重要な教科内容として位置づけられた。防災に密接に関連した地理教育（特にハザードマップや避難、防災マップの読図と、その前提となる地域の自然・社会環境の認識）は、学校における防災教育において重要な位置にある。さらに、学校教育と社会教育の連携など、東日本大震災の教訓を如何に教育現場でいかすかを考え、討議する。

7. プログラム

13:30～15:10

趣旨説明：田村俊和（日本学術会議連携会員・地理教育分科会委員、立正大学地球環

境科部教授）

司会：春山成子（日本学術会議連携会員・地理教育分科会委員、三重大学共生環境

学科教授)

奥村晃史** (日本学術会議連携会員・地理教育分科会委員、広島大学大学院文学研究科教授)

地域の自然に学ぶ大地震と津波のリスク

宮城豊彦 (東北学院大学教養学部 教授)

コミュニティーベースで GIS を用いた防災マップ作製事業の効果と限界

村山良之 (山形大学大学院教育実践研究科教授)

学校での地震防災教育と地図の利用

15:10～15:20 休憩

<司会 熊木洋太 (日本学術会議連携会員・地理教育分科会幹事、専修大学文学部教授)>

15:20～16:20

伊藤智章 (静岡県吉原高校教諭)

高校地理における地図教育の改善について 一特に GIS の活用と防災教育を視野に—

新堀 毅 (都立日比谷高校主幹教諭)

高校地理教育における地図教育の現状と課題

16:20～17:00

<司会 春山・熊木・田村>

総合討論

総括：碓井照子* (日本学術会議会員・地理教育分科会委員長、奈良大学文学部教授)

8. 関係部の承認の有無： 第一部承認

9. 申し込み方法・連絡先： 事前の申し込みは不要です。

連絡先：地理教育分科会幹事 熊 木 洋 太

27	
幹事会	130

提 案

公開シンポジウム「生命科学のパイオニアが語る生命の不思議」の開催について

1. 提案者 基礎生物学委員会委員長・統合生物学委員会委員長・基礎医学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 : 日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会、基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会
2. 日 時 : 平成23年9月2日（金） 13：30－17：00
3. 場 所 : 大阪大学吹田キャンパス内 银杏会館 三和ホール
4. 分科会の開催：開催予定
5. 開催趣旨：

現在、細胞生物学や形態医科学の知見や手法は、医学をはじめ農学、薬学、理学、工学などあらゆる分野で活用され、生命科学に関する研究を牽引しています。日本においても、多くの研究者が生命科学研究のパイオニアとして活躍し、世界の生命科学の進展に大きく貢献してきました。今回、今後の日本の生命科学を支える若い研究者を育てるため、細胞生物学や形態医科学などの分野を支えてきたパイオニアと呼ぶべき研究者から、若手研究者や大学院生などにメッセージを発信していただき、この分野の学術の動向と今後の研究の進展を考える場を設けたいと考えます。
6. 次 第

13：30～13：40 はじめに

廣川信隆（日本学術会議第二部会員、東京大学医学部教授、同大学院医学系研究科教授）

- 13：40～14：30 ○岸本忠三（大阪大学大学院生命機能研究科教授）
- 14：30～15：20 ○大隅良典（日本学術会議連携会員、東京工業大学統合研究
院先進研究機構特任教授）
- 15：20～15：40 休憩
- 15：40～16：30 ○長田重一（日本学術会議第二部会員、京都大学医学研究科分
子生体統御学講座分子生物学教授）
- 16：30～17：20 ○廣川信隆（日本学術会議第二部会員、東京大学医学部教
授、同大学院医学系研究科教授）
- 17：20～17：30 おわりに
黒岩常祥（日本学術会議第二部会員、立教大学大
学院理学研究科特任教授）

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

28	
幹事会	1 3 0

提 案

公開シンポジウム「安全・安心な社会のための食料・健康・環境 ―植物工場による
ライフ&グリーンイノベーション―」の開催について

1. 提案者 農学委員会委員長・食料科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分会
会、日本生物環境工学会
2. 後 援：日本農業工学会、農業情報学会、農業機械学会、生態工学会、園芸学会、
農業施設学会、農業気象学会（予定）
3. 日 時：平成 23 年 9 月 7 日（月）14：00～17：50
4. 場 所：北海道大学クラーク会館 講堂
（北海道札幌市北区北 8 西 8）
5. 分科会開催予定：開催予定

6. 開催趣旨：

東日本大震災による放射能汚染が人々の安全・安心な生活を脅かす事態が続く。健康で安心して暮らせる社会が国民の最低限の願いである。特に食料については放射能汚染の風評被害を最小限に抑えるための正しい科学的知識とともに、環境・エネルギーの観点から持続的に安全な食料を安定的に生産できるシステム形成のための科学・技術が必須である。本シンポジウムでは、二部構成で生活の基盤である食料と健康に焦点をあてて社会のあり方を考える。第 1 部では放射能汚染からの食料の安全性と健康への影響について取り扱う。第 2 部では閉鎖空間で食料など有用植物を生産する植物工場に焦点をあてて、食料・健康・環境に寄与する最新の研究・開発動向を紹介する。安全・安心な社会のための次世代植物工場について広く意見聴取並びに意見交換を行

なう。

7. 次 第：

14:00－ 14:10

開会挨拶：野口 伸（日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院農学研究院教授）

【第1部：放射能汚染からの安全・安心】

14:10-14:40

1. 岸 玲子（日本学術会議第二部会員、北海道大学環境健康科学研究教育センター長・教授）

「健康リスクとリスクコミュニケーション（仮題）」

14:40-15:10

2. 杉山英男（帝京平成大学健康メディカル学部教授、国立保健医療科学院客員研究員）

「食品の放射能と健康」

（休憩： 15：10～15:20）

【第2部；次世代植物工場による安全・安心】

15:20-15:50

3. 丸尾 達（千葉大学大学院園芸学研究科准教授）

「太陽光利用型植物工場の最前線（仮題）」

15:50-16:20

4. 松村 健（産業技術総合研究所ゲノムファクトリー研究部門リーダー）

「植物工場の現状と新たな展開（仮題）」

16:20-16:50

5. 村瀬治比古（日本学術会議連携会員、大阪府立大学大学院工学研究科教授）

「植物工場によるグリーンイノベーション（仮題）」

総合討論（17：00～17:40）

（コーディネータ：清水 浩；京都大学大学院農学研究科教授）

17：40－ 17:50

閉会挨拶：橋本 康（日本学術会議連携会員、日本生物環境工学会名誉会長）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

29	
幹事会	130

提 案

公開シンポジウム「日本における老年学・老年医学推進のためのシンポジウム」
の開催について

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：臨床医学委員会老化分科会
2. 後 援：国立長寿医療研究センター
3. 日 時：平成 23 年 9 月 14 日（水）13:00-16:00
4. 場 所：東京大学山上会館
（文京区本郷 7-3-1）
5. 分科会の開催：分科会開催予定

6. 開催趣旨：

世界に類をみないスピードで高齢化する我が国において、さらなる健康長寿を達成するとともに社会の高齢化に伴う諸問題に対して有効な策を講じることは喫緊の課題である。[新成長戦略]においても超高齢社会に対応した社会システムを構築し、すべての高齢者が家族と社会のつながりのなかで生涯にわたり生活を楽しむことができる社会の構築を目指すとする。そのためには、高齢者の健康と福祉、社会参加、衣食住とその条件整備、年金、メンタルケアなどを幅広く学際的に研究する分野である老年学と高齢者の医療に関わる老年医学をさらに発展させることが重要である。このような考えに基づき、平成 21 年、日本学術会議臨床医学委員会において老化分

科会が設置された。本分科会において提言予定であるのは(1)医学以外の他領域との協同で行う高齢者の社会参加、社会貢献を可能とするシステムの開発とその推進、(2)老年学の推進と老年学・老年医学の学部・大学院・卒後教育での整備・充実、(3)各地域に高齢者医療センターを設置し、老年疾患研究・高齢者医療におけるエビデンスを国家規模で蓄積、(4)在宅医療・チーム医療・チーム介護のシステム開発とその推進の4つである。本シンポジウムにおいては公表予定の提言を広く医療・介護専門職及び老年学・老年医学の研究者などに公開し、日本における高齢者医療に関する議論を行う。同時に老年学、老年医学の推進、教育体制、地域医療に関する成果を発表する。本シンポジウムの開催により、老年学・老年医学の今後の発展に向けた議論をさらに深めることが期待される。

7. シンポジウム次第

○主催者側挨拶 北 徹（日本学術会議第二部会員、同臨床医学委員会老化分科会委員長、神戸市立医療センター中央市民病院院長）

○趣旨と進行の説明

座長：北 徹（日本学術会議第二部会員、同臨床医学委員会老化分科会委員長、神戸市立医療センター中央市民病院院長）
大内尉義（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科加齢医学教授）

○講演（予定）

1) 日本学術会議臨床医学委員会老化分科会からの提言について

北 徹（日本学術会議第二部会員、同臨床医学委員会老化分科会委員長、神戸市立医療センター中央市民病院院長）
大内尉義（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科加齢医学教授）

2) 老年医学の卒前・卒後教育の現状と展望

下門顕太郎（東京医科歯科大学老年病内科教授）

3) 老年学の推進と研究、教育体制構築の展望

荒井秀典（日本学術会議特任連携会員、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教授）

4) 高齢者医療体制をどのように構築していくか

鳥羽研二（日本学術会議特任連携会員、国立長寿医療研究センター病院長）

5) 在宅医療・チーム医療、介護システムの開発とその意義

三浦久幸（国立長寿医療研究センター部長）

○質疑と討論

○閉会の挨拶 大島伸一（日本学術会議連携会員、国立長寿医療研究センター総
長）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

30	
幹事会	1 3 0

提 案

公開シンポジウム「社会的なるものの復権ーあらためてモダニティを問うー」の
開催について

- 1 提案者 社会学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議社会学委員会社会理論分科会
2. 共 催 日本社会学会
3. 日 時 平成 23 年 9 月 17 日（土） 16 時 20 分～18 時 20 分
4. 場 所 関西大学第 3 学舎 A201 （大阪府吹田市山手町 3-3-35）
5. 分科会 分科会開催予定

6. 開催趣旨

社会学委員会社会理論分科会では、これまでの討議をふまえて、本年 9 月に関西大学で開催される日本社会学会大会の折に、「社会的なるものの復権ーあらためてモダニティを問うー」というテーマのシンポジウムを実施することとした。このシンポジウムでは、社会学が誕生以来、焦点化してきた「社会的なるもの」「モダニティ」を問い直し、社会学の存在理由を明らかにするとともに、21 世紀にふさわしい社会のイメージを提示することを試みる予定である。

7. 次 第

司会者 友枝 敏雄（日本学術会議連携会員、社会理論分科会副委員長、大阪大学大学院人間科学研究科教授）
山田真茂留（日本学術会議特任連携会員、社会理論分科会委員、早稲田大学文学学術院教授）

挨拶 今田 高俊（日本学術会議第一部会員、社会理論分科会委員、東京工業

大学大学院 社会理工学研究科教授)

報 告 盛山 和夫 (日本学術会議連携会員、社会理論分科会委員、東京大学大
学院人文社会系研究科教授)

「社会的なるものと社会学—モダニティの学の終焉のあとに何が可能か—」

那須 壽 (早稲田大学文学学術院教授)
「日常生活世界と「社会的なるもの」」

竹沢尚一郎 (国立民族学博物館先端人類科学研究部・教授)
「被災の共同体と社会的なるもの」

討論者 遠藤 薫 (日本学術会議連携会員、社会理論分科会委員、学習院大学
法学部教授)

太郎丸 博 (日本学術会議特任連携会員、京都大学大学院文学研究科
准教授)

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

31	
幹事会	1 3 0

提 案

日本学術会議東北地区会議主催講演会の開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議東北地区会議
- 2 共 催 岩手大学、いわて高等教育コンソーシアム、日本学術会議同友会東北支部
- 3 後 援 岩手県、岩手県教育委員会、岩手県市長会、岩手県町村会、(社)岩手経済同友会、岩手県中小企業家同友会、いわて未来づくり機構、岩手日報社、盛岡タイムス社、胆江日日新聞社、岩手日日新聞社、東海新聞社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手
- 4 日 時 平成23年11月11日(金) 13時～17時
- 5 会 場 岩手大学教育学部北桐ホール(岩手県盛岡市上田3丁目18番8号)
- 6 概 要 (テーマ)

「東日本大震災からの復興と科学・技術」

(開催趣旨)

日本学術会議会員が中心となり、各地域の大学、地方公共団体、経済関係団体などの関係者が一堂に会し、地域が直面する重要かつ具体的な課題を科学・技術の視点から分析し、検討することを通じて、効果的・効率的な地域の人的ネットワークおよび共同研究体制の形成を実現することを目的とする。

次 第

(1) 開会挨拶

栗原 和枝(日本学術会議東北地区会議代表幹事、第三部会員)

藤井 克己(岩手大学長)

(2) 講演

特別講演

講演者：日本学術会議会長 or 副会長(若しくは前会長 or 前副会長)

(未定)

演題：「東北地方太平洋沖地震による津波発生メカニズム」

講演者：今村 文彦（東北大学大学院工学研究科教授、連携会員）

演題：「津波被害とまちづくりー岩手県沿岸市町村の復興計画からー」

講演者：南 正昭（岩手大学工学部教授）

(3) パネルディスカッション「被災地に寄りそう支援活動と科学・技術」

パネリスト 今村 文彦（東北大学大学院工学研究科教授、連携会員）

砂山 稔（岩手大学人文社会科学部教授、連携会員）

名古屋 恒彦（岩手大学教育学部教授）

南 正昭（岩手大学工学部教授）

廣田 純一（岩手大学農学部教授）

司会 岩渕 明（岩手大学理事・副学長（総務・地域連携・国際連携））

(1) 開会挨拶 13:00~13:15

栗原 和枝（日本学術会議東北地区会議代表幹事、第三部会員）

藤井 克己（岩手大学長）

(2) 講演

13:15~13:55

特別講演

講演者：日本学術会議会長 or 副会長（未定）

(若しくは前会長 or 前副会長)

13:55~14:05 質疑応答

14:05~14:45

講演「東北地方太平洋沖地震による津波発生メカニズム」

講演者：今村文彦（東北大学大学院工学研究科教授、連携会員）

14:45~15:15

講演「津波被害とまちづくりー岩手県沿岸市町村の復興計画からー」

講演者：南 正昭（岩手大学工学部教授）

15:15~15:25

休憩

15:25~16:45

パネルディスカッション「被災地に寄りそう支援活動と科学・技術」

講演者以外のパネラー3名 震災関連の話題提供 各 10 分

被災地支援と科学・技術の役割について討論 50 分

16:45~17:00

質疑応答

17:00 閉会

32	
幹事会	1 3 0

提 案

「平成 23 年度産学官連携推進会議」の開催について

- 1 提案者 会長
- 2 議案 標記会議について、下記のとおり開催すること。

記

- 開催日時
平成 23 年 9 月 21 日（水） 9：00～17：30
22 日（木） 10：00～17：00
- 開催場所
東京国際フォーラム （東京都千代田区丸の内3丁目5番1号）
- 開催趣旨
産学官連携に携わる全国の大学、企業、行政などのリーダーや第一線の研究者、実務者が一堂に会し、産学官連携に向けた具体的課題を研究討議するとともに、情報交換、対話・交流等を図る目的で開催するものである。産学官の関係者が集い、今後の我が国の目指すべき方向性について英知を結集して考えることは、非常に意義深いことだと考えられる。日本学術会議は、平成 14 年度から毎回、主催機関となっている。
- 4 主な内容(予定)
 - テーマ
「我が国の復興・再生に向けた産学連携の促進」
 - 会議スケジュール
9月21日（水）9:00～17:30

主催機関等による展示

9月22日（木）10:00～17:00

- ① 開会 総理大臣からのメッセージ
- ② 基調講演 科学技術政策担当大臣「第4期科学技術基本計画について」
- ③ 特別講演 西田厚聰 （株）東芝 取締役会長
川口淳一郎 宇宙科学研究機構宇宙科学研究所 教授
- ④ 特別報告 江刺正喜 東北大学マイクロシステム融合研究開発センター長
児玉龍彦 東京大学先端科学技術研究センター教授
- ⑤ 産学官連携功労者表彰・内閣総理大臣賞プレゼンテーション及び写真撮影
- ⑥ パネルディスカッション
 - I グリーンイノベーションにおけるエネルギー科学技術
 - II 災害からの安全性向上に役立つ科学技術

※その他、主催機関等による展示と、若手研究者による科学・技術説明会を併せて実施

5 主催

内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、日本経済団体連合会、日本学術会議、科学技術振興機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構、日本学術振興会、情報通信研究機構、理化学研究所、物質・材料研究機構、産業技術総合研究所、工業所有権情報・研修館、宇宙航空研究開発機構、海洋研究開発機構、日本原子力研究開発機構

6 備考

今年度は、平成23年9月20日（火）～22日（木）に開催予定の「イノベーション・ジャパン2011」と同時開催する予定。産学官連携推進会議は、講演会、分科会、産学官連携功労者表彰、若手研究者による科学・技術説明会並びに関連展示（主催独立行政法人、受賞者及び説明会発表者）を担当し、産学連携に関する各種展示を行う「イノベーション・ジャパン」と相乗効果を図り、全体として効果的な事業とする。

（参考）「イノベーション・ジャパン2011」の概要

我が国最大の産業界と大学をつなぐプラットフォームの一環であり、国内大学の最先端技術シーズと産業界のマッチングイベント。410を超える研究成果の展示会やショートプレゼンテーション、200を超える「大学発」研究成果の新技术説明会や、研究者との交流が可能なマッチングコーナー、更には、産業界等からも情報発信を行う

ことで産学のマッチング・交流を促進した。

主催は、独立行政法人科学技術振興機構（JST）、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）、共催は文部科学省、経済産業省、内閣府。

33	
幹事会	1 3 0

提 案

サイエンスアゴラ 2011 の開催について

1. 提案者 科学と社会委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 独立行政法人科学技術振興機構、日本学術会議
2. 共 催： 独立行政法人産業技術総合研究所、東京都立産業技術研究センター、
国際研究交流大学村（東京国際交流館、日本科学未来館、産業技術総合研究所臨海副都心センター）
3. 後 援： 内閣府、文部科学省、農林水産省、東京都港湾局、独立行政法人国立科学博物館、独立行政法人日本学術振興会、独立行政法人理化学研究所、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、大学共同利用機関法人 自然科学研究機構国立天文台、財団法人日本科学技術振興財団科学技術館、ブリティッシュ・カウンシル、関東1都3県教育の委員会、全国中学校理科教育研究会、全国科学館連携協議会、全国科学博物館協議会ほか
4. 日 時：平成23年11月18日（金）～ 11月20日（日）
5. 場 所：日本科学未来館、産業技術総合研究所臨海副都心センター、東京都立産業技術研究センター
6. 分科会の開催： 有 （未定）

4. パネル討論 (60 分)

パネリスト：

毛利衛 (日本学術会議第三部会員、(独) 科学技術振興機構日本科学未来館館長)

柴田徳思 (日本学術会議連携会員、日本原子力研究開発研究機構 J-
PARC センター 特別研究員)

本田孔士 (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授)

木村茂光 (日本学術会議第一部会員、東京学芸大学教育学部教授)

北原和夫 (日本学術会議連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授) ほか

コーディネーター兼パネリスト

室伏きみ子 (日本学術会議第二部会員、お茶の水女子大学理学部教授)

5. 閉会挨拶 (5 分) 北原和夫 (日本学術会議連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授)

【mini セルフエスタ】

開催日時 : 11 月 19 日(土)、20 日(日) 10:00~17:00

開催場所 : 日本科学未来館 1 階企画展示ゾーン

内容 : 生物をつくる細胞は、命の源となる大切な働きを担っています。細胞の観察や実験を通して、その不思議に触れ、細胞研究の楽しさを体験します。
展示詳細(予定) / 巨大細胞「セル蔵君」、これが私の DNA、ウニの発生ほか。

企画運営責任者 : 室伏きみ子 (日本学術会議第二部会員、お茶の水女子大学理学部教授) ほか

9. 関係部の承認の有無：科学と社会委員会承認

10. 申し込み方法・連絡先：申し込み不要、参加費無料。

34	
幹事会	1 3 0

提 案

国内会議の後援

- 1 提 案 者 会長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
機械の日・機械週間 ① 主催：一般社団法人日本機械学会 ② 期間：平成23年8月1日から7日 ③ 場所：大阪科学技術センターほか	一般社団法人日本 機械学会会長 佐 藤順一	第三部
平成23年度工学教育連合講演会 ① 主催：公益社団法人日本工学教育協会 ② 期間：平成23年9月7日 ③ 場所：北海道大学大学院工学研究院オープンホール	公益社団法人日本工 学教育協会 会長 服部拓也	第三部
第91回慶應医学会シンポジウム ①主催：慶應医学会 ②期間：平成23年11月11日 ③場所：慶應義塾大学医学部	慶 應 医 学 会 会 長 末松誠	第二部
第6回医療の質・安全学会学術集会 ①主催：医療の質・安全学会 ②期間：平成23年11月19日、20日 ③場所：東京ビッグサイト	医療の質・安全学会 学術集会会長 永 井良三	第二部
第8回中高生南極北極科学コンテスト ①主催：国立極地研究所 ②期間：提案の公募 ～9月6日、表彰式11月23日 ③場所：国立極地研究所（表彰式）	大学共同利用機関 法人情報・システム 研究機構国立極地 研究所 藤井理行	第三部

35	
幹事会	1 3 0

提 案

「日本学術会議の活動状況等に関する年次報告
(平成 22 年 10 月～平成 23 年 9 月)」の作成について

- 1 提案者 科学と社会委員会委員長
- 2 議案 標記について、別紙のとおりとすること。

36	
幹事会	1 3 0

提 案

第 21 期における分科会活動の総括結果について

- 1 提案者 会長
- 2 議案 標記について、別紙のとおりとすること。